

福島第一原子力発電所の状況

平成26年11月10日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (11/10 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約2.0 m ³ /h	24.7	3.4 kPa g	A系： 0.03	vol%
		給水系：約2.2 m ³ /h			B系： 0.03	vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約2.5 m ³ /h	31.4	4.82 kPa g	A系： 0.07	Vol%
		給水系：約1.8 m ³ /h			B系： 0.07	Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレィ系：約2.5 m ³ /h	29.8	0.21 kPa g	A系： 0.07	Vol%
		給水系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.05	Vol%

・H26/11/8 11:29 3号機原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約2.2m³/hから約2.5m³/hに調整(炉心スプレィ系からの注水量は約1.9m³/hで継続中)。

<2. 使用済燃料プールの状況> (11/10 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	18.4 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	16.7 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	16.2 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	10/27 10:43 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	11/5 16:14 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/10 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設 備(ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運 転	水バランスを みて断続運 転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
- 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
- 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より

氷の本格投入を開始。

8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。

10/16～11/6 2号機海水配管トレンチ開削ダクトにて間詰め充填工事を実施。

10/20～11/2 2号機海水配管トレンチ立坑Aにて間詰め充填工事を実施。

今後、間詰めによる止水効果確認を11月中旬を目途に行っていく予定。

・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。

10/3～ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。

・H26/10/22 ～10/29 1号機原子炉建屋カバー解体作業における放射性物質の飛散抑制対策の一環として、当該カバー屋根パネルを取り外す前に同パネルに孔をあけ、飛散防止剤を散布する作業を実施。
当該作業期間中、各ダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はなし。

10/31 オペレーティングフロアの瓦礫調査およびダスト濃度調査等を実施するため、建屋カバー屋根パネル2枚(南3・北3)の取り外し作業を行うこととしており、1枚目(南3)の取り外し作業を実施。

11/10 8:31 屋根パネル2枚目の取り外し(吊降ろし)作業が終了。当該作業期間中において、ダストモニタの濃度及びモニタリングポストの指示値に有意な変動はなし。今後、取り外した屋根パネル(南3・北3)の開口部から、再度、堆積している瓦礫等へ飛散防止剤の散布を行うとともに、空気中のダスト濃度を確認した上でオペレーティングフロアの瓦礫の状況調査等を実施。

・H26/11/7 J2タンクエリアにおいて、11:23 タンク建設工事中に鋼材が落下し、作業員3名が負傷し、そのうち作業員1名に意識がないとの連絡が緊急時対策本部にあった。これを受けて、11:35 救急車を要請。負傷者3名のうち重傷者を除く2名については、12:33 発電所を出発し、その後檜葉町にて消防防災ヘリに乗り換え、いわき市立総合磐城共立病院へ向かった。重傷者1名については、救急医療室にてドクターヘリの医師による処置を行った後、12:51 救急医療室を退室し、ドクターヘリにて福島県立医科大学へ搬送。なお、当該作業員3名に身体汚染はない。調査の結果、建設中のタンク上部に作業用の梯子を旋回させるための鋼鉄製のガイドレール(形状:半円状、長さ:約25m、重さ:約390kg)の落下によるものであることが判明。当該レールは仮止めされた状態であり、位置調整のため、一旦仮止め治具を緩めたところ、何らかの原因により当該レールが落下したことを確認。その際に、地面に落下した当該レールが跳ねて、当該タンクと隣接しているタンク付近で、堰の設置工事に従事していた作業員3名に接触し被災。救急医療室の医師により頸椎損傷の疑いありとの診察を受けた重傷者については、現在も福島県立医科大学において医師の診察、治療を継続。また、右足骨折の疑いありとの診察を受けた負傷者についても、いわき市立総合磐城共立病院において、医師の診察、治療を継続。なお、両足下腿部擦過傷及び両足打撲との診察を受けた負傷者については、いわき市立総合磐城共立病院の医師による診察を終え本日は帰宅。また、鋼鉄製のガイドレールが落下した現場周辺を確認した結果、汚染水タンク、配管、堰等の設備に影響を与えるような異常はなし。

・H26/11/7 22:59 頃、4号機の廃棄物処理建屋において漏えい検知器が動作し、使用済燃料プール代替冷却系の1次系ポンプが自動停止。4号機については、11/5に全ての使用済燃料の移動作業が終了しており、現在は新燃料180体のみが保管されていることから、プール水温の上昇はない。なお、停止時の4号機使用済燃料プール水温度は約16℃。その他のプラントパラメーターの異常、モニタリングポスト指示値の有意な変動は確認されていない。その後、現場を確認したところ、当該漏えい検知器周辺に約1m×約2m×深さ約1cmの水たまりがあり、検知器近傍に敷設されていた仮設ホースから水が流れていることを確認。このため、周囲を調査したところ、屋外に設置されていた工事用水(淡水)を溜める仮設プラスチックタンク内の停止中の水中ポンプから、サイフォン効果により、仮設ホースを通じて水が流れ込んでいた。当該ポンプを取り外したことにより、水の流入は停止。漏えいした水については、堰内に留まっており建屋外への流出はない。なお、使用済燃料プール代替冷却系の配管に漏えいは確認されていない。漏えいした水の表面線量は、1cm線量当量率(γ 線)0.07mSv/h、70 μ m線量当量率(β 線)0.02mSv/hであり、高線量の β 線は確認されず、バックグラウンドと同程度。

漏えいした水の分析結果は、以下のとおりです。

・セシウム134:1,800Bq/L

・セシウム137:5,600Bq/L

・コバルト60 :41Bq/L

分析結果については、工事用水(淡水)がフォールアウトによる床面汚染を取り込んだものと判断。

11/8 当該漏えい検知器周辺の床面の拭き取りが完了し、2:45に当該警報が解除。使用済燃料プール代替冷却系の一次系ポンプについては、起動準備が整ったことから、6:00に起動。運転状態に異常はない。6:25現在の使用済燃料プール水温は15.9℃であり、自動停止時の16℃と比べ、変化はない。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。(No.11 は藻のような生物を汲み上げた原因調査のため、10/15 より停止中)

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

＜H4エリア周辺のサンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

＜福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

＜H6エリア周辺のサンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

＜地下水観測孔サンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【1～4号機サブドレンの状況】

- ・10/18～ サブドレン他水処理施設については、一部のサブドレンピットを使用して、H26/8/12 より安定稼働に向けた浄化性能確認試験等を開始しているが、残りのサブドレンピット 28 箇所を加え、計 42 箇所(実際はトリチウム濃度の高い No.1,N14 を除く 40 箇所)について、系統運転試験(STEP3-2)のための地下水のくみ上げを開始。
- ・10/24～ 地下水ドレンピットを使用して、使用前検査のための地下水のくみ上げを開始。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

＜地下貯水槽サンプリング実績＞

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上